



おくすり通信

No. 51 SERM とその他～骨粗鬆症治療薬～

こんにちは、薬剤科です。今回は代表的な骨吸収阻害薬であるBP製剤についてご紹介しました。今回は骨吸収阻害薬の中でも閉経後骨粗鬆症に適応のあるお薬や、その他の骨吸収阻害薬についてご紹介します。

《骨粗鬆症の分類》

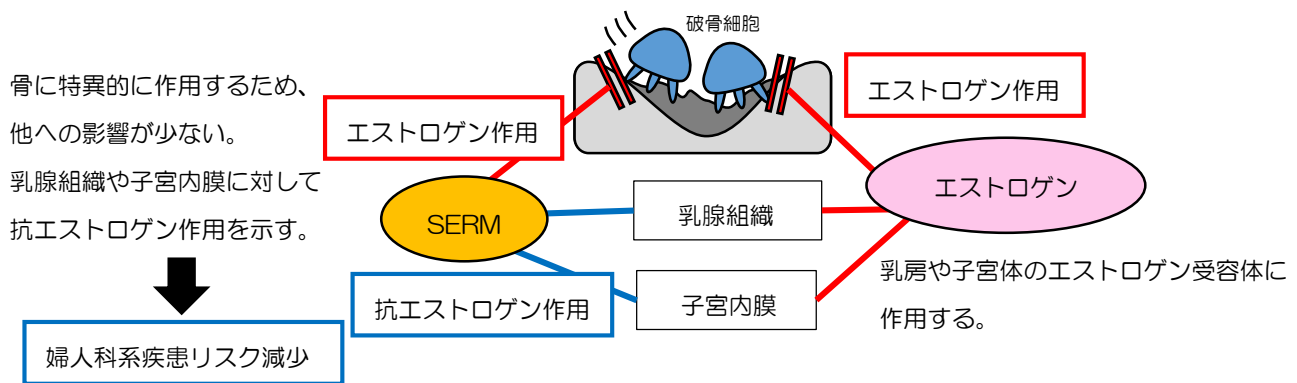
骨粗鬆症には**原発性**と**続発性**の2種類が存在します。

	原因	特徴
原発性骨粗鬆症	閉経、加齢 ↳ 閉経後骨粗鬆症	閉経後は 女性のみ 。 加齢に関しては男性もあり。
続発性骨粗鬆症	生活習慣、基礎疾患に伴って発症	基礎疾患を治療することで改善されることが多い。 ステロイド性骨粗鬆症が最も多い。

女性ホルモンであるエストロゲンは**破骨細胞の活動を抑え、骨吸収を抑制する働き**があります。**女性は閉経を迎えるとエストロゲンが減少するため、骨吸収を抑制する働きが弱まり骨粗鬆症を発症しやすくなります。**これが高齢女性に骨粗鬆症が好発する理由の一つです。

《治療薬》

不足したエストロゲン作用を補う働きを持つ薬を **SERM (選択的エストロゲン受容体モジュレーター)** といいます。**骨に対してはエストロゲン作用を、乳腺組織や子宮内膜に対しては抗エストロゲン作用を示すため、骨代謝を緩やかにするのはもちろん、乳癌や子宮体癌などの婦人科系疾患のリスクを減らします。**



現在、SERMは2種類のお薬が存在します。適応が**閉経後骨粗鬆症**のため、男性には処方されません。

	一般名	商品名	特徴的な副作用
SERM	ラロキシフェン	エピスタ	静脈血栓塞栓症
	バゼドキシフェン	ビビアント	凝固系の産生が増えることがある。

《その他の骨吸収抑制薬》

	一般名	商品名	特徴
VK ₂ 製剤	メナテトレノン	グラケー	ワーファリンと併用禁忌
イブリフラボン製剤	イブリフラボン	イブリフラボン	エストロゲン様作用を持つ
カルシトニン製剤	エルカトニン	エルシトニン	骨粗鬆症による疼痛に適応あり

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。